

古瓦について

現在桜井市池内に住んでいます。奈良文化財研究所を定年退職して11年です。

瓦工 土屋傳兵衛

ここに天明四年（1784）の年号のある鬼瓦があります。「十市郡新口村土屋傳兵衛」とあり、新ノ口の瓦師の作で多分これは庫裏の鬼瓦ではと思います。

土屋傳兵衛は2代しか続かなかったようですし、今新ノ口では土屋傳兵衛をだれも知らないようです。傳兵衛は沢山作っていますが当時は、豊かでないので、新ノ口で1, 2軒お寺の仕事をするとそこでの仕事は終わり、それならと近くの集落の寺の仕事をしてくわけですが、数代で周辺のお寺の仕事もなくなってしまい家業も終わるわけです。



真宗寺院には獅子口を載せることが多いですが、これは菊と波の「菊水」つまり火除けを願ったデザインです。現在の門の上にある菊水の鬼瓦と同時期のものと思われます。本堂に載っていたらしき鬼瓦はここには見えません。

またここに、丁字（クローブ）が入った鬼瓦があります。丁字は当時輸入品であったもので、おまじないの意味があります。これも本堂ではなく庫裏などで使っていたと思います。

私は、定年退職してから瓦の銘文を探して調査しています。そうしていたところミヅホさんで馬の鬼瓦を見つけました。珍しいので驚き、ある日がまんできなくて「この蔵はいつ頃にできましたか？」とお尋ねしたところ、母屋には蛇、虎、鳥・・・とどうやら干支の鬼瓦がある



ことがわかりました。中村の民家の瓦もみんな見ましたが銘文はありませんでしたが、阪門神社には、江戸時代前半の古い鬼瓦がありました。

奈良の盆地内のお寺は全部まわり、何千と中世から江戸時代の初め、幕末、明治、大正、昭和までの銘文を調査しました。浄楽寺にもかつて勝手に入らせていただいたことがあり、当時縁の下にある瓦を撮影したことがありました。



私の瓦の銘文に関する調査報告は、近畿大学のHPでご覧ください。

(元奈良国立文化財研究所 大脇潔)

浄楽寺総合調査報告書の正誤表&情報サイトです。この説明会の記録も掲載中。

右の画像をスマホで読み取ってご覧ください。

https://www.kazabito.com/jorakuji_temple/

浄楽寺 〒634-0009 奈良県橿原市中町279

■問い合わせ先■

サイト内の問い合わせフォームか080-3800-5650まで

2025.01.05

